

# お母さん達

新美南吉

青空文庫



お母さんになつた小鳥が木の上の巢の中で卵をあたたためてをりました。するとまた今日も牝牛がその下へやつて來ました。

「小鳥さん、今日は。」と牝牛がいひました。

「まだ卵は孵りませんか。」

「まだ孵りません。」と小鳥は答へていひました。

「あなたの赤ちやんはまだですか。」

「だんくお腹の中で大きくなつてまゐります。もう十日もしたら生れませう。」と牝牛

はいひました。

それから小鳥と牝牛はいつものやうにまだ生れてゐない自分たちの赤ん坊のことで、自慢をしあひました。

「牝牛さん、聞いて下さい。私の可愛い坊や達はね。きつと美しい瑠璃色をしてゐて、薔薇の花みたいによい匂がしますよ。そして鈴をふるやうなよい聲でちるくと歌ひますよ。」

「私の坊やはね、蹄が二つに割れてゐて、毛色はぶちで尻つぽもちやんとついてゐて、私

を呼ぶときは、もうくつて可愛い聲で呼びますよ。」

「あら可笑しい。」と小鳥は笑ひをおさへていひました。

「もうくが可愛い聲ですつて。それに尻つぽなんか餘計なものよ。」

「何を仰有るのですか。」と牝牛も負けずにいひました。

「尻つぽが餘計なものなら、嘴なんかも餘計なものよ。」

こんな風な話をしてゐたら、お終には喧嘩になつてしまひませう。ところが喧嘩に

ならない前に、一匹の蛙が水の中からぴよんと跳び出して來ました。

「何をそんなに一生けんめいに話していらつしやるのですか。」と緑色の蛙は聞

きました。そして、牝牛と小鳥からそのわけを聞くと、蛙は眼をまんまるくして、

「それは大變よ。」といひました。何が大變なのか牝牛と小鳥が心配さうにきくと、

蛙はいひました。

「あなた方は赤ちゃんかもうぢき生れるといふのに、子守歌を習ひもしないで、そんな

暢氣なことを言つていらつしやる。」

牝牛と小鳥は、どうしてこんななうつかりしてゐたのでせう。早速子守歌を習はな

ければなりません。ところで誰に習つたものでせう。

「ぢやあ、私が教へてあげます。」と蛙がいひました。牝牛と小鳥は大變喜んで、蛙に子守歌を教へて貰ひました。

けれども、こんなにもむづかしい子守歌はありません。とてもむづかしくて牝牛と小鳥はちつとも覺えられませんでした。それはかういふ子守歌でした。

げつ げつ げつ

げろ げろ げつ

ぎやろ ぎやろ

げろ げろ

ぎやろ げろ げつ

牝牛と小鳥は、一生けんめいに習ひましたが、それでも覺えられないのでお終にはいやになつてしまひました。けれど蛙が、「子守歌を知らないでどうして赤ん坊が育てられませう。」といひますので、また元氣を出して、「げつ げつ げつ」と習ふのでした。そしてそれは夕方、風が涼しくなる頃までつづきました。



# 青空文庫情報

底本：「校定 新美南吉全集第三巻」大日本図書

1980（昭和55）年7月31日初版第1刷発行

1992（平成4）年2月25日第4刷発行

初出：「幼稚園と家庭 毎日のお話」育英書院

1936（昭和11）年11月15日

※「可愛《かは》いい」と「可愛《かあい》い」の混在は底本の通りです。

入力：Julki

校正：富田倫生

2012年5月24日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.azora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# お母さん達

新美南吉

2020年 7月18日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>